

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

税金や、あと社会保障制度ということで税金を納めて年金だとか、そういったものについてであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

池田子ども教育課長。〔教育委員会子ども教育課長 池田 修君登壇〕

○教育委員会子ども教育課長（池田 修君）

学校では税務署と協力させてもらいまして、納税教室等で税を納めるのが国民の義務であるとか、あるいは税務署の方々から各学校に訪問してもらって、税を納めることの大切さ等の講義、そういったことを学校では進めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

あと、ほかに行政サービスというのは、全てほとんど申請主義になっておりますので、子どもたちに何でも面倒くさがらないで、いろんなことを聞いたり申請したりして行政サービスを受けられるということも、ぜひ認識させてあげてほしいと思いますので、ぜひよろしくお願いします。

以上で、私の一般質問を終わります。

○議長（樋口英一君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

ここで15時まで暫時休憩いたします。

〈午後2時47分 休憩〉

〈午後3時00分 開議〉

○議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。〔9番 伊藤文博君登壇〕

○9番（伊藤文博君）

清生クラブ、伊藤文博です。

本日5人目となり、大変お疲れのところですが、新幹線開通も1年後と目前に迫ってきた大切な局面について、建設的な答弁を期待して質問いたします。

1、新幹線開通を1年後に控えたまちづくりの現状と課題、今後の対応について。

新幹線開通も1年後と目前に迫ってきました。新幹線開通を地域発展への分岐点とできるかどうかは、30年持続可能な糸魚川市にとって達成が必要な大きな課題であります。新幹線開通に向けた「まちづくり」のハード、ソフト両面について伺います。

(1) ハード整備の現状と今後の取り組みについて。

新幹線開通に間に合わせるべく、道路や街路整備が計画・進行しています。次の現状と今後の取り組みについて伺います。

- ① 糸魚川駅の整備について。
- ② 北口駅前商店街の街路整備について。
- ③ 中央大通り線の国道148号への延伸区間の整備について。
- ④ フォッサマグナミュージアムのリニューアルについて。
- ⑤ 青海地域の高架下利用について、計画の進行状況はどうなっていますか。

(2) ソフト戦略について。

全国各地がまちづくり・地域おこしに懸命になっている中、他地域にないものを含めた糸魚川の魅力を発信し、交流人口の拡大に繋げていくには工夫が必要であります。

- ① ジオパークをツールとした売り込みはどのように展開するのか。
- ② 糸魚川の良いところを認識し取りまとめ、どのような売り込み方をするのか。
- ③ お客さんと呼べるメニューづくり、お客さんに喜んでもらえるメニューづくり、来ていただいたお客さんがリピーターとなり、そこから新たな顧客獲得に繋がるような工夫・取り組みはどうか。

(3) ハード・ソフトの連係について。

ハード整備により、その後のソフト面の展開と合わせてイメージする全体構想が大切であり、ハード・ソフトの連係が重要になります。

- ① 駅周辺の今後の発展をどのようにデザインしているか。
- ② 中央大通り線の全通による商店街の形成、糸魚川市全体の都市形成をどのようにイメージしているのか。
- ③ フォッサマグナミュージアムのリニューアルにおけるコンセプトと、ジオパークによる交流人口拡大戦略の連係はどのようになっているか。

(4) 市長公約の「市民協働・チーム糸魚川」と「職員の意識改革」による交流人口拡大戦略について

- ① チーム糸魚川が新幹線開通に向けてどのようにその潜在能力を発揮していくのか。
- ② 職員の意識改革により職員の能力を最大限に引き出し、民間の力も同様に最大限引き出した取り組みによる官民両輪の働きがなければ、新幹線開通を好機にすることはできない。職員の意識改革を促進するこれまでにない取り組みが必要と考えるが、どのように取り組みますか。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、南北自由通路の暫定供用開始は、9月ごろを目標に進めております。

また、新幹線1階のジオラマ鉄道模型やキハ52、ジオパーク情報発信コーナーは、新幹線開業までに完成いたします。

2つ目につきましては、日本海口広場の整備は8月完成を目標に進めており、アーケードの再構築、県道無電柱化や歩道のリニューアル、車道のカラー舗装は、年内に完成する予定であります。

3つ目につきましては、年内の供用開始を目標として工事を進めております。

4つ目につきましては、9月のクラシックカーレビューの翌日から休館をしてリニューアル工事に着手し、新幹線開業前にはオープンする予定であります。

5つ目につきましては、本年度中に用地を取得し、新年度において実施設計を行い、早期の店舗オープンを目標にしております。

2点目につきましては、糸魚川ジオパーク特有の知的満足度の高さを生かして修学旅行や体験学習など、継続して訪れていただけるよう取り組んでまいります。

また、食や地酒などを組み合わせることで、個性豊かなツアー商品を提案してまいります。

さらに26年度には、新たに体験教育旅行誘致促進事業を実施し、小・中学校への情報提供や旅行会社への営業活動なども進めてまいります。

3点目の1つ目には、糸魚川駅前通りを道路施設としてだけではなくて、人が集り、どのように楽しめるかを商店街と一体となって取り組んでまいります。

2つ目につきましては、中央大通り線全通後は、さらに利便性も高まり、商店の立地が進むものと考えております。

一方、糸魚川、能生、青海の商店街のあり方については、大きな課題と捉えております。

3つ目につきましては、国内外にジオパークの特徴と魅力を発信し、教育、研究を主体とする修学旅行、体験学習等で交流人口の拡大に努めてまいります。

4点目の1つ目につきましては、当面は糸魚川市全体のチームワークを高める活動と、糸魚川を知り、糸魚川に愛着を持ってもらう活動を行っていきたいと考えております。

26年度は、（仮称）心のふるさと糸魚川応援隊の制度を立ち上げてまいります。

チームワークを高める活動とあわせて情報共有を進める中で、チーム糸魚川としての一体感が醸成できた後に、次のステップとして産業おこし、定住、交流人口拡大などのプロジェクトへの取り組みを検討してまいりたいと考えております。

2つ目につきましては、職員が世代で部署を越えて、共通のテーマで意見交換を行う研修などを実施し、チーム市役所としての意識づけを高めております。これらの取り組みをさらに強化し、職員みずからが熱くなって、業務に励む職場環境の醸成に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答

弁もごございますので、よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

1から3までは関連するので、行ったり来たりすると思いますが、よろしくお願ひします。

全てのことで官民連携が必要だという観点ですよね。市だけでは、やはり何も達成できないし、しかし民間だけでもだめ、両方でよく連携していかなきゃいけないということなんですが、駅北口、それから駅南口、それから新幹線駅1階の整備については、今、市長答弁のとおりだと思うんですが、例えば新幹線駅1階ですけど、これができてから実際の現場に立って活用の方法を市民と一緒に考えていくというようなプロセスも必要だと思うんですけど、とりあえず供用開始した中でやっていくのか、その辺について考え方があればお願ひしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

新幹線1階下の施設については、大きな3つのゾーン分けをしております。基本的には新幹線開業に間に合わすわけですけど、当然、建築の部分と、それからその中に入れるまた施設の部分がかわっておりますので、建築のほうは、できれば8月、9月に終わらせた中で、それから今度は内装といわれるようなところに取りかかってまいりたいと思いますし、また、実際3月の開業前とはいいませんが、例えば実際にもう少し早く中を完成させて、その辺をどういうふうに運営していくかも含めて、若干、開業前より早いうちにある程度形をつくって、運営方法は今後も考えていきますが、実際、現場でもそういう実施といいますか、点検できるような形で仕上げていきたいと、このように思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

鉄道のジオラマにしても、やっぱりつくるだけじゃなくて、その後の運営の中で工夫に工夫を重ねていく必要があると思うんですよね。誰が主体になって運営していくのかという部分が、今度は重要になってくると思います。観光案内のところとは全く次元が違うので、これについてはどういうふうに考えていますか。その後の改修が必要となってくることもあると思うんですけど、それも含めて考え方をお願ひしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤産業部長。〔産業部長 加藤政栄君登壇〕

○産業部長（加藤政栄君）

お答えいたします。

1階部分の管理運営につきましては、今現在、検討中でございますけれども、基本的に情報発信部分、あるいはジオラマ部分もありますけれども、施設的にはつながっている部分でございますので、一体として考えてるところでございます。ただ、今、実際それをどうするかというのは、まだ検討中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

表に出るのはどこかは別にしても、市内に鉄道模型の愛好者がいますよね。そのような方々のノウハウを生かした運営をしていかないと、実際につくったはいいけど、もうそこは放りっぱなしで勝手にやってる、大して施設を有効に利用できないというようなことが、ちょっと心配されるわけですよね。そういう方々の協力を仰ぐというのは検討されてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

このジオラマにつきましては24年度のいろんなイベントから、地元の愛好家の方の協力も得ながら、その模型を出していただいたりしてお話をさせてもらっております。今、そういう方々のノウハウ、知恵をお借りする中で、実際に今度はそこに張りついてもらうとかということになりますと、いろんなまた賃金の問題もありますが、基本的にはやっぱり糸魚川の鉄道の愛好家の人を核として、進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

当然、費用対効果はあるんですけど、鉄道ジオラマがいいかどうかという議論は、もう決まっている話ですから避けて、それをつくったことをしっかりと活用していかなければいけないわけですから、それから運営したときにいろいろ問題点が出てきて、改善策を講じていく。愛好者の目から見たら、どういうふうにしたら利用者が多くなるか、それが糸魚川市の駅のにぎわいにどうつながっていくかという観点でのことは、非常に重要だと思うんですよ。費用対効果はあるけど、やはりしっかりした取り組みをしていってほしいと思います。もう一度、あつたらお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

私が申し上げた費用対効果というのは、そこでB/Cが1とか、そういうことではありません。当然、必要な費用は必要な費用、それから、そこでやっぱりにぎわいとか、それから運営が重要ですので、やっぱりその辺を主眼とした形の費用対効果というような形で、検討していく予定にして

おります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

当然、費用をかけて利用者が高まることによって、そこで採算という観点ではない費用対効果というのがあるという考え方で進めていただきたい。

アーケードの建設スケジュールが、厳しいという話をちょっと聞いているんですよ。この現状、今ほど建設スケジュールについては市長の答弁であったんですけど、実際、大丈夫なんでしょうかね。それが厳しいとしたら、その原因が何で、その改善策として、しっかりと無理のない形で工事が進められていくのかどうか、お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

駅北のアーケードに関しましては、いろんな事業がふくそうしております。商店街組合が建築をしますアーケード、それから無電柱化事業によって県道の車道、それから歩道の復旧をしていただきます新潟県、それから日本海口の駅北広場を整備します都市整備課、それから市道の一部をカラー舗装にいたします建設課、非常に事業が関係機関、また他課と連携をしながら取り組む必要がございます。今のところは、全ての仕事を年内には終わらせる見込みでおるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

無理ないスケジュールで進めていただきたいということなんです。どうしても間に合わせろ、無理をしろということを言ってるつもりはないんですけど、やはり効率化を図って、うまく打ち合わせをして進めていってもらいたいという観点で質問していますので。

そしてアーケードが整備された上で、駅前の活性化を図る必要があると。先ほど答弁の中にもいろいろと市長からあったわけですが、もう少し具体的に。考え方としてはわかったんですが、どういう枠組みの中で、どういう連携を図って活性化を図っていくのかという観点で、答弁をお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

駅前銀座商店街におきましては、昨年、活性化法の認定を受けまして、その活性化法に定めましてイベント計画を着々と進めていただいているところであります。本年も2月15日の日に、糸魚川再発見というイベントを取り組んでいただきましたし、また、3月16日のカウントダウンイベン

トとあわせまして、駅前銀座商店街もイベントを同時開催するというので、取り組んでいただいております。

そのほかに昨年の4月からは、糸魚川の駅北の口の字の商店街の皆様、にぎわいづくりの実行委員会を立ち上げていただいたところがございます。これは市、それから商工会議所、それから口の字の商店街の皆様、その三者の連携によるにぎわいづくりの実行委員会を立ち上げていただいたところでもあります。

毎月のように実行委員会を開いていただいております、具体的に今、何を取り組めばいいのかというところは、それぞれが今、知恵を出し合っているところがございます、今ここで具体的に、どういうものに取り組んでいくというふうなところは見えてこないわけではありますが、その中でもいろいろと話が出ております。

回遊性をもたせて、おもてなしをするという部分におきましては、例えば、のれんですとかいうもので、修景を整えるとかいうふうな話も出てきておりますけれども、まだ具体的に、ここでお話できるような状況には至っておりませんが、関係者の皆さんが、とにかく何かやらなきゃならんよなというふうな雰囲気の中で一生懸命、今、知恵を出し合っているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

そこと絡んでくるんですが、中央大通り線が国道148号に延伸してつながっていくと。そうすると今度、交通の流れが変わりますよね。長野方面から来ると、そこから糸魚川市街に入るということは、糸魚川インターでおられた人も、その流れに乗る人も多くなっていくということになると市街地構成で、今、駅北のにぎわいづくりをやっているものにも、少なからず影響してくるという可能性は考えられるわけですよ。そういうことを分析して、情報として共有しながら、検討されているということが大事になってくるんですけど、難しい問題にも向き合わなきゃだめですよ。そういう意味で、その辺はどうでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

中央大通り線の流れですけども、148号と上刈白馬通り線がつながると、その部分は非常に便利になるということで。ただ、もう1点、ここがつながると、時期は若干ずれるんですけど、今度は国道の東バイパスのほうも押上のタッチがございます。その辺が交通量で、以前、東バイパスが暫定供用したときに、国道のほうで2割ほど減ったということもございますし、その部分で今非常に、特に中央大通り線の奴奈川線から押上の交差点までの非常に交通量がふえております。今度は逆に、多分148号から要するに駅、奴奈川線の交通量がふえてくるという中で、やっぱり人の流れも変わってくると思いますが、今、北と南のところにやっぱり自由通路というものを設けまして、これは車では通れませんが、駅の南側にも駐車場等を整備して、やはり南と北の、当然、玄関口の違いはありますが、やはりこれは一体となった施設というような形の中で、考えていかなければな

らないんじゃないかと思ってます。それぞれすみ分けはあると思いますが、やはり施設としては、これは一体の施設だという考え方を広めていく必要があると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

そういうふうにな人の流れが変わることで、今とは違う状況が出てくることを認識して、対応していくことが大事であろうということを言ってるんで。いろんなケースが考えられる。それは実際に起きてみなきゃわからないことだからこそ、可能性を今考えて対応していくということになるんだと思うんですよ。これはまたちょっと後で、ソフト面のところでやります。

フォッサマグナミュージアムリニューアルのコンセプトの1つは、ストーリー性ということにしましたね。そういうストーリー性を持って見ていただくということにデザインもしたわけですが、これは総文で提言されて、より明確にデザインに取り入れられたかと思っておりますが、これでは、それが実際1つの理念として、全体に生きていかなければいけない。そのこの言われた部分だけそうするとか、そういうことではなくて、やはりストーリー性を持った楽しませ方というのが、観光客から見たら望ましいんであると、求められてるもんだという、見やすい、楽しめるという感覚でやっていかなきゃいけないと思うんです。このジオパーク行政全体の中に、そういう考え方を取り入れていかなきゃいけないと思うんです。これはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

今回のリニューアルのコンセプトは、基本的には教育、研究の場とするということと、もう1つは交流、観光の場として機能させるということが、大きなコンセプトであります。

展示の方法の具体的なことについては、今、議員おっしゃられましたように視覚的に、いかに効果を見せるかということで、ヒスイとフォッサマグナを目玉として、この2つをいかに印象づけるかというのがポイントで、視覚的な、ビジュアル的な機器を使って見せるということを中心に置いております。

それと、第1から第5、6の展示室までストーリー性を持って、ヒスイとフォッサマグナを中心に展示をしたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

それで糸魚川市の売り込みにも、ストーリー性を売りにしていくべきであるというふうにソフト面につながってくるんですが、ジオパークそのものの売り方にもストーリー性というのがあるでしょうけど、糸魚川は奴奈川姫を題材とする神話のまちであるということ。それから民話もたくさん

ある、それからヒスイのできる過程などというのは、これはまた1つ地質学的なストーリー性もあるわけですが、ただまとめるだけではなくて、神話にしても、ジオパークとあわせた売り方をしていくということでないといけないと思いますね。どのように考えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

ちょっと言葉足らずでしたけれども、先ほどの展示の仕方についてもヒスイとフォッサマグナだけではなくて、奴奈川姫と、それとヒスイの成り立ちとといいますか、その関係も含めて、少し導入部分で説明したいというふうに思っております。

ただ、ここでは全部というよりも、隣に考古館がございますので、考古館との連携というものも念頭に置いた奴奈川姫との関係も、人との成り立ちも説明していきたいというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

観光戦略全般のことを聞いたんですけど、また、それは後で聞きます。

じゃあ青海地域、青海通り線沿いの新幹線は、発展してきた商店を潰す形で建設をされたという経過があって、したがって、高架下利用の意義は大変大きいんですね、青海地域にとっては。今、幾つか、6つぐらい聞いてますが、店舗と多目的ホールなどという計画があるように聞いていますが、これはちょっとしっかりと計画を答えていただきたいということですが、5店舗、6店舗の構成というのは、これも重要ですが、これは民間によるところが大きいです。そうすると、その多目的ホールと言っているんですかわからないですが、その活用と、その辺一帯のにぎわいづくりというのは、非常に大きな課題になります。これはどのように考えているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

青海地域の青海通り線沿いに新幹線が走ってるわけでありまして、非常にまちの中心部を新幹線によって分断されるということから、橋脚のスパンを30メートルに広げていただいたところでもあります。それによって南北の圧迫感をなくそうということと、それから今お話のありましたように、非常にお店が立ち並んでいたところを新幹線が通ったわけでありまして、それらの商店を一堂に集めたいというふうなこともございまして、旧青海町では鉄道・運輸機構との間で、事業後、鉄道・運輸機構の土地を買い求めるという覚書を交わしてきたところでもあります。3月までには、その高架下の土地、それから高架下から南側の部分の土地も鉄道・運輸機構から買い求めることができる状況になってきております。

今までも青海の商工会の皆さんとは商業の部分での検討会、それから公共的な空間の部分におきましては、公共利用検討部会というふうなことで、これは地域の公民館長さん、また、あるいは保育園、幼稚園の保護者の方にも入っていただいた検討部会でもありますけども、その2つの部会を持って今まで検討してまいりました。その検討の内容を、今年はイメージ図、パースをつくりまして、それぞれがまたイメージを高めようというふうなことで取り組んできたところでございます。

新年度になりまして実施設計を発注し、できれば年内には店舗オープンに向けたいというふうな計画で取り組んでいるところでございますけども、公共的なスペースの取り組みにつきましては、今現在、検討しておるところでございます。地域コミュニティーの核となったり、あるいはコミュニティーカフェになったり、あるいはお年寄りの方が集まってくつろげるというふうな、いろんな各方面で利用できるものを、今、検討させてもらっているところでございまして、それを踏まえて実施設計に取り組んでまいりたいというふうに考えているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

平野部が少ない糸魚川市にとって、土地の活用というのは大きな課題であります。高架下の土地を生かすかどうかというのは、大きな違いですよ。青海町時代に、また合併直後の計画では、国道8号交差点より東側の高架下も、公園的活用の絵が描かれていたというときもあったと思うんですけど、もう今はフェンスが張られている状況になりましたが、ここについての考え方ですね、今後の可能性についてはどうなのか。今現在の取り組みは、もうここで決まっているわけですが、お答えいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

今、検討させていただいているのは、お示ししたとおりでございまして、それ以外の点については、新市になってから検討いたしておりません。

ただ、これからの中で地域、または市全体で利活用が図られるというような、また住民、また行政、いろんな連携もいいですが、そういった形の中であるものについては捉えていきたいと思いますが、まずは今計画いたしているものについて、やはりしっかりと捉えて成功させていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

今現在、やっぱりそういうことだと思うんですよ。ただ、今回の計画でやってみた中で、次に対してまた考慮に入れていけるのであれば、やっぱり考えていってもらいたいと思います。

青海地域にとって青海通り線の横を新幹線が通ったというのは、物すごく大きいことなんですよ

ね。もう一等地を潰して新幹線が通っているという状況の中で、もうそれはしようがないんで、その状況をいかにプラス側に転じていくかということが、非常に大事なことだろうと思いますので、よろしくお願いをしたいと思います。

それでは、またソフト面に入っていきますが、(2)のところ、他地域にないものを含めたと云ってるのは、多くはどの地域でも同じものを売りたいがっているんですね、どこにもいいものがある。もちろん、糸魚川市にしかないものもあるわけですね。一方、素晴らしいものだけ、ほかにもあるというものもある。それをあわせて売っていかなくちゃいけないのが、状況だと思うんですよ。どこにもあるけど、糸魚川市にこういういいものがあるし、糸魚川に来た人が、そういうものも望んでいるものもある。その両方を売らなくちゃいけないということだと思うんですけど、そういう観点での整理というのはできていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

先ほど伊藤議員のほうからお話があったとおり、当糸魚川市のジオパークというのは地形や地質だけでなく、やはり大地が織りなす、そこにある動植物、それからそこに生活する人の営みとか文化、風習、そういったものが全てジオパークとして成り立っているわけで、そこにやはりストーリー性が生まれてくるというふうに思っています。

ただ単に見ていただくだけでなく、その成り立ちのストーリー、そういうことを説明することで、やはり他地域との違い、そういうものが出てくると思いますし、いわゆる高い満足度、そういうものを与えることができますし、やはり最近の防災教育、そういうものにも通じるのかなと思っています。

そういう中で、当地域の豊富な資源、非常にあると思います。やはりどこの何を組み合わせてツアー商品にするかというのは、ある意味、本当に悩ましいところでもあります。ただ、逆に言うと、それだけ多くのバリエーションに富んだツアーがつくれるというふうにも思っています。そういう意味で私も職員のほうに指示をしまして、季節ごとに見どころとか施設、イベント、食、そういった区分に分けて資源の洗い出しとか分類、そういったものを今やっておりますので、こういったものを参考にする中で、ターゲットに合わせた商品づくりを進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

ヒスイや奴奈川姫というのは糸魚川にしかないですね。例えば福来口の鍾乳洞関係ですけど、今すぐ入れるかどうかは別として、縦穴のランキングでは日本のベストテンに、たしか4つか5つ入ってますよね。ジオパークの中にも、糸魚川にしかないものはたくさんある。そんなような中で、お客さんのニーズに合わせた楽しませ方というところが必要だと思う。

先日のいといがわ元気印シンポジウムでも、実際に観光に携わっている人が、こちらが驚くようなところで楽しんでくれるというような話があったんですよ。例えば路線バスに乗せて焼山温泉へ行った。帰ってきたら物すごく喜んでいて。何がよかったかといったら、いやあ、バス停がよかったと言ってるんだそうですね。田んぼの真ん中にぽつんとバス停があって、日本の原風景といわれる、それが物すごくよくて楽しかったと。お風呂も全部含めてですよ、だけどそのバス停が随分印象的だったというようなことがあるんですね。

そういうのは外国人の方にも多いと思うんですが、実際に観光の最前線にいる人とのコミュニケーションをとって、お客さんが何を求めているのかというのを、売る側の視点ではなくてお客さん側の視点での捉え方、情報交換をして、いろいろな方策を講じていかなきゃいけないというふうに考えるんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に糸魚川市は資源が豊富でございます。いろんな人たちが来て、いろんなやっぱりご意見をいただくわけでありますが、それをどの辺でとっていくのかというのは、非常に難しいところがございまして。そうなりますと、やはり我々としてもいろんな、観点から1つ絞り込みをしながら、こういうものをベースにしながらいかなくていけないんだろうという、今、方向に考えておりました、それは観光という面で広く浅くではなくて、狭くて深いものにもっていくことが大切なのではないかなと思っております。

例えば食することも、非常に観光の中で大きなウエートを占めるわけでありまして、四六時中、365日、同じ産品が提供できるかという、我々はもう年がら年中、少量多品目での生産品になってくるんだろう。また、漁獲する部分もあるわけございまして、そういったものをきちんと位置づけすることも大事じゃないかなと。そして、それにより豊富な多様性のある糸魚川の資源を肉づけしていくことが大事になるんでないかなと思っております。

その辺を見定めていかなくちゃいけないんだろうと思っております。非常に今、そういったところで、我々はまず、自分たちの考え方をしっかり出すことが大事じゃないかなと。いろんな方々がおいでいただいて、いろんなご意見をいただいております。そういうものをベースにしながら、そういったものを練り上げて、ちょうど今、北陸新幹線開業という大きな1つのチャンスであるわけでございますので、そういったところを絞り込んで出していければと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

確かにジオパークに対する思い入れが強い人は、ジオパークを核にして売っていきたい。ジオパークで、今、市長が言われたようにジオパークに絡めたという言い方だけではなかったと思うんですけど狭く深くというところがある。ところが神話ということに思い入れがある人は、やはり神話を

中心としたストーリー性が糸魚川市の売りであろう。例えば海の資源に愛着を持っている人たちは、やっぱり海でしょうと、海産物でしょうというふうな、そういうふうなことがあると思うんですけど、やっぱり思い入れだけでは人は呼べないというのが観光の現状だと思うんですよ。

やはりそういうものを今いろいろ取りまぜて、お客さんが何を求めているかということが大事であって、先ほどの質問は、そういうことをしっかり把握するために、思い入れがある人の思いだけではなくて、実際に現場でやっている人たちの情報をしっかり取り入れて、方策を講じていく必要があるんじゃないかということですね、もう1つ踏み込んで。思い入れの部分は、それはいいんですよ。間違ってもないし、それでいいと思うんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

当然、今現在、観光の第一線で携わっている人たちは数多くおるわけでございますし、ガイドの皆さんも多くおるわけでありまして。ただ、しかしそれはある程度の情報として受けとめさせていただいて、そのみで私は判断をするべきじゃないと思っております。

例えばジオパークにいたしましても多様性があり、歴史文化、先ほど課長の答弁にもありましたように非常に多様性があるものでございます。そしてまた我々は、やはり先ほどもこれもまたお話をさせていただきましたが、非常にマニアック的なところのジオパーク活動でございますので、そういった一般的には受けないかもしれませんが、しかし、全国、世界で数えたら、非常に多くの人たちがおいでいただける要素があるわけでございますので、その辺を何がいいのか、また、どういうことに特化していけばいいのかというのを、しっかり決めていきたいと思っております。でありますから、決して独自のことで突っ走っていくということではございませんけれども、ある程度のやはりご意見をお聞きしますが、みんなでそういったところを、1つ判断しなきゃいけないんだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

答弁の中にたくさん出てきますが、糸魚川にはいいところがたくさんある、本当にたくさんあるんですよ。そのたくさんあるものを生かしていくということでは、やはりジオパークもそうでしょうし、それから食のものもそうでしょう。四季折々に応じた食というものもあるだろうという観点で、同じことを言ってると思うんですけど、言い方が多分違うだけで、やっぱりジオパークも多様性があるけど、糸魚川市も全体的で見ても多様性があるわけですよ、ジオパークの中だけでも多様性があるけど。だから糸魚川市全体の多様性を生かしていくような観点到立たないと、糸魚川市を観光で交流人口の拡大を図っていくという施策に踏み込んでいくには、やはり足りないものが出てくるんじゃないかということですね。それは実際に観光をやってる人たちが、そう考えるとところがあるわけですよ。

ですから行政側が考えていくものと、例えば政策と現場のギャップがあつてはならない。現場の意見も取り入れながら、政策的として考えていったものに取り入れていって、窓口を広げていくという考え方ですね、私が言ってるのは。1人の人が言ってることだけを取り上げると、これはまたそれに偏重してしまうわけですから、そうではなくて、やはり市長の考え方に、行政の担当者の考え方に、それから観光の現場の人たちの考え方のすり合わせを今以上にやっていくことが、多分、少なくとも糸魚川市は観光については素人同然ですから、そういう謙虚な気持ちでいかなきゃいけないだろうということですね、私が言ってるのは、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

少し伊藤議員の具体的におっしゃることと、私が具体的に言ってることと、ちょっとずれる部分があるかもしれませんが、基本的には一緒だと思ってるんです。伊藤議員は、糸魚川パッケージとしてどう考えるのか、私は、じゃあ逆に糸魚川を売り出すには、ジオパークのパッケージとして糸魚川が売れるんじゃないかというような話をして、要するに大枠でどのようにインパクトを出したほうがいいのかというところの論議を、きちっとしろということなんだろうと思っております。

そのような中で、私は同じ立場の中で、もう1つやっぱり踏み込まなくてはいけないのは、やはり市民がその中でしっかりと理解をし、市民全体が、そうだよ、これをやらなくちゃだめなんだよ。そして、よそからおいでいただいた方にも、しっかりとした地域なり、ふるさとに対しての誇りと愛着を持っていけるようなものがなければだめだろうと思っております。

ですから、お客さんが来ようが来ようまいと、糸魚川の人たちは、非常にこういったことに熱くなっているんだと、こういったことに非常に皆さんが楽しんで頑張っておるんだという、やはり形をつくっていくことが大事でなかろうかなと思っております。それがよそから何でそこが楽しいんだ、何でそこがそんなに喜んでるんだ、楽しんでるんだというところが大事なんだろうと。それが自分たちがそこに住んで、おいしいものを食べて、これがおいしいよねと言ってる。地元の人たちが言わなければ、よその人たちが、当然、来るわけがございませんし、来たときに、そんなものおいしいのかいと言われて、地元で言われれば興ざめもするわけでございますので、そういうことのないように、地元がまずしっかりと理解をし、熱くなって初めてよそへ打ち出していけるんでないかなと思っております。その辺がどういう形であれ構築をしていきたい。また、それがチーム糸魚川で醸成できればというような形も含まれております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

今のところは、きょうの最後、その辺までもっていきたいなというところまで答弁してもらった話なんですけど、それはまたちょっと後にしますが。

そこまでいく過程で、やっぱり大事なことがいろいろあると思うんですよね。例えば今の現場の

声を聞くにしても、市民と行政職、政治家としての市長も含めて、ざっくばらんに意見交換する場がやっぱり必要であろうと。少なくともやっぱり糸魚川市民の特性としては、官依存体質がやっぱりもともと強いと思います。そこからだんだん元気を出して、自分たちがやるんだというふうに変わってきていると。その意識が強くなっているところで、行政とのかみ合わせがうまくいかなければいけない。行政側も今までの市民とは違うというところをしっかりと認識して、対応して、お互いに相乗効果で、今、市長が言ったように、盛り上がりを見せていくというところへもっていかなきゃいけないと思うんですね。

これはまた、次の意識改革のところでも言っていますが、方向性としてやはりそういう認識を持っていかなきゃいけない。全体で糸魚川市を盛り上げていくという、先ほどチーム市役所という話もありましたが、これについてはどのように考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えさせていただきます。

私が市長になってから各地域へ出向かさせていただいて、市民の皆様方と懇談をする中において、市民がやはりプレーヤーで、行政はサポーターですよというような形で進めてまいりました。やはり市民の皆様方がそういう気持ちになったり、やる気がないと、行政がいくらやると言っても連携がとれないと思っております。そういう中で、それが今まできた1つのうまくいかなかった点の要素でもあるわけございまして、それをじゃあどう進めていくのかという中で、今、地域づくりプランもそのとおりであるわけでありまして、

どうしてもやはり行政しっかりやれよ、行政が支えてくれなきゃ何もできないというものがあって、いろいろやってまいりました。しかし実際の事業なり、そういった1つの一番最前線で捉えた一番活動しておるのは、市民であるわけでありまして、一番の内容を知っておる人も、やはり市民であるわけございまして、そういった人たちがやはり先頭に立って動かなければ、何もうまくいかない部分であります。そういうことを考えた中で、そういう言い方をさせていただきました。

しかし、市民が熱くなって動いていっても、またそれを支えていく行政が冷めていたんではだめだということで、昨年4月の選挙のときに、やっぱり行政改革をしながら行政も職員も熱くなって、連携をとっていきたいということで進めさせていただいております。

また、どうしても行政に対する依存というのも、結構、私、感じる部分ございまして、そういったところをさらに、もう一度やはり熱くなって、市民ともう一度対応せないかなだろうと。それぐらいレベルアップしないと、市民も動いてくれないんじゃないかなというような感覚で、今進めさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

官民一体となった取り組みが必要なんですけど、先日のそのシンポジウムがありましたけど、観光

関係の雑誌の取材が来て、糸魚川市のまちの中を見たら、糸魚川市はそのまま、いいもたくさんあるじゃないですかというのがあった。糸魚川市のいいところをどのように表現して、どういう形で誘客につなげていくか。どういう方々をターゲットにするかというのが、さっきの多様性のところになってくると思うんですよ。

だから専門的な人をターゲットにする部分もあるでしょうし、そうじゃない、もう普通の観光客、食を求めて来る人たちをターゲットにするし、日本の原風景を求めて来る人たちもターゲットにするというようなことではいかなきゃいけない。お客さん目線で、統一感を持って取り組んでいくということが必要だと思うんですよ。

ですから、今言った行政職と市民が一体となってやっていくのにも、やはりそれぞれの立場でというよりも、一緒になって情報交換をしながら論じ合い、行動していく場所というところが必要になってくると思うんですが、これはちょっと答えにくいかもしれませんが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

いろんな今、懇談会なり協議会を進める中において、行政は何を考えているんだと、行政はどういう方向でいきたいんだとか、行政のじゃあ案はというのは結構あるわけでありまして。そういうことは一切今は行わないで、やっぱり柔軟なフランクな中で出していきながら、何を進めていけばいいかというのを、絞り込みましょうよというようなこともさせていただいております。

そのように非常に今進める中において、そういうものが多く出てまいっておるわけでございますし、例えば高架下、駅下についても、非常に元気をなくしておるというようなことをよく言われますが、もっともっとやはりこれは企業感覚の中で、どのように生かしていけるかというところを、もっとやっぱり詰めていただくような専門的な、地元の住民の皆様方も持っておられると思うので、そういうのをもっと出していただきたい。そういう中で行政がどのように支えていくのか、どのようにまた支援していくのかというところが、やっぱり必要になってくるんだろうと。その辺がなかなかうまくマッチングしてないのも、私は事実かなと思っております。

そういった中で、じゃあ我々は期限が迫ってる中においては、どうしても、もうやらなくちゃいけないというところの中で、我々は何を取り上げ、また、何を断念しなくちゃいけないかという、今、状況だろうと思っておるわけでありまして、その辺もなかなか限られた時間の中で出しておる部分がございます。情報提供においては、少し皆さんによっては不満なところもあろうかもしれませんが、今、そういう状況で進めてる部分もございます。待っていたら、それがおくれる部分もあるんでないかなと思っております。しかし、ある程度やはりコンセプトをしっかり持って、そして1つの基本的なものを、理念的なものをしっかりすることによって、私はある程度の事柄は出していけるのではないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

中央大通り線の148号タッチと市街地構成の話ですが、先ほども述べましたけど、中央大通り線と148号がつながることによって交通の流れが変わり、少なくとも南方向から148号で来た人の流れは変わる可能性が高い。これはインターでおりた人も同じですけど、この現実をやはり市民と共有して、開通後を考えて対策を講じていくと、考えていくと、検討していくということが大事だろうと思うんですね。こういう課題が起きるよという認識を、今、共有できているかどうかですね、それから話し合われているかどうか、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

流れが変わるとというのは、同じ共通認識を持っておりますが、じゃあそれによってどこをどうするというのは、正直なところ私どもが民と話したことはございません。行政の中では中央大通り線の延伸に伴ういろんな用途のある程度の考え方を15年、それから昨年と変えた中で、先ほど市長が言ってました商業のほうのある程度、店舗が建つ対応も予想しながら進めてきたところもありますが、それについて細かくやっぱり民と、この通りがどうなることによってという話は、正直なところ詰めてはおりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

難しい問題なんですよ。先ほどの答弁の中でありましたけど、南口も北口も自由通路がある中で、一体と考えていきたいという話がありましたけど、南口にタッチすることで、そういうことが考えられるのであれば、南口のあり方というのも重要になるわけです。市街地構成として考えたときにね、これ課題として言ってるんですよ。もうでき上がるものが決まっている中での、今度はソフト面でどう対応できるかという課題の話なんで、そういうふうにご検討ください。

この南口イコール駅周辺、北口へのつながりとなる。本当につながりを出すためには、相当のソフト面の対策が必要であるとなるでしょう。人の流れという観点でいくと、南口が今は人が集まる場ではないですよ、商店街とかがないという意味ですけど。駅から中央大通り線の間が空白となって、そうすると、したがって北口とのつながりというものが希薄になってくるということ、ソフト面で補っていく必要があるというふうには思うんですけど、そういう観点での分析をされていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

南側につきましては中央大通りという、少し離れたところに東西の結節するバイパス機能も持つ

た道ができるわけでありまして、今、もう交通量がかなりふえていて、148号とつながるとかなりのまた利便性が高まる部分もあろうかと思うわけでありまして。

そういう中で、今ご指摘は、もうそういうものを予測していろんなものを判断し、対応せよとご指摘いただいとるんだらうと思っとるんですが、やはり糸魚川の国道8号の東バイパスが完成する部分もありますし、また、新幹線の利活用によってどういう流れができるかというのは、なかなか少し予測できない部分がございます、その用途にいたしましても、そう簡単にはちょっといけない部分があるのではないかな。今、北側では商域の再構築を、今、図っておる部分もございます。そういう中で新たな展開というのは、なかなか今できにくい状況であります。

やはり開通してみて、ある程度方向性が見えたときに、そういったまた計画も考えなくてはいけないかなというぐらいの気持ちで、本当に消極的で申しわけないなと思っておる部分がございますが、今の状況はそんなところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

今、市長答弁の現状だとして、そうなる今後の課題ということになるんですけど、南口は住宅街となっているわけですよ。駅周辺開発構想の中で平成13年に定められたものが、そういう選択をしたわけですから、それをバイブルとしてやってきたという答弁は、これまでも課長のほうからありましたね。

それが現実である。その現実を見て、対策を講じる必要がやっぱりあるわけですね。ちょっとしんどい現実なんです、実際に対策を講ずるのは。しかし、そのことをしっかり捉えないと、駅と栄えていくだろう中央大通り線が離れていることによって、そこに空白が生じて、その駅周辺そのものが、厳しい状況になるということが考えられるんですよ。これは間違いなく、そうなるんでしょ、今のまま何も対策を講じないと。それを何とかしていかねばいけないということなので、これは今後の課題として受けとめていただきたいと思うんですが、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

今のままだと南側は衰退をしていくという、今ご指摘をいただきました。とはいえ南側に駐車場、そしてまた駅前ロータリー、南側にもできるわけでございまして、いろいろな面で利便性が高まっていくんだらうと思っとるわけでありまして。

そういう中で、やはりそこにおる住民の皆様方の意向も含めまして、この商業区域という形の中でどういうふうに展開していくかというのは、やはりその都度連携をしながら、対応していかなくちゃいけないんだらうと思っております。

ただ、今まだできてない段階の中において、それを今、さらに出してというのは、なかなか難しい部分がございます。今、課題とさせていただきながら、もしそういう状況が起きたときには、速やかにみんなで、やはり協議できる対応はしていかなくちゃいけないとは思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

まず、課題としてしっかり捉えてもらった上で、どういう検討、取り組みをしていくかというのは、これからでいいと思うんですけど、やはりそういう可能性が非常に高いですね。

今言われたように、南は駐車場もあってと言いますが、そこが1つ南口から中央大通り線が空白のことによって、駅周辺そのものに影響が出てくるという考え方ですから。

それでもう1回ジオパークですが、ジオパークに取り組んでわかったこともあるはずですよ。ジオパークで人を呼ぶ難しさもあるでしょう。いいところもたくさんある、難しいところもあるんですよ。それは認めなきゃいけない。ジオパークで人を呼べないと言い切ってる人もいます。僕はそうは思いませんよ。思わないけど、限界はあると思いますね、呼ぶのに。ここで視点を広げた取り組みをするべきと考えるわけですよ。

ジオパークに対する思い入れは市長も相当強いものがあるし、我々議員もそうです。しかし、視点を広げた取り組みをしていっていただきたいというふうに思います。答弁があったら、ちょっとお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ジオパークで人が呼べないというのは、ちょっと私、理解に戸惑うわけではありますが、要するに我々は交流人口拡大のための1つの大きなツールとして受けとめとるわけでございます。道具として、やはり使えるものというふうに考えております。それはどういうことかということ、やはり我々の大地、我々の住んでいるふるさととは学べる場所であり、研究をする場所であり、考えられる場所であるわけでありまして。そういう中で我々は持続できる、こういった交流人口拡大のやはり大きな道具として、使っていけるんだろうと思っております。

いろんな切り口があるから、いろんな人たちが来て、そういったものに対応できるわけでありまして。当然、ヒスイを頂点とする鉱物であり、また地形であり、地質であり、そして歴史文化、そういったものにもつながる部分でございますので、やはりそれをうまく出していかなくてはいけない。ジオパークでお客が来ないというのは、うまく使ってないからだという捉え方になるのではないかなと思っております。

そして今、全国に波及しておるわけございまして、世界にも広がっております。やはりこういう1つの全国でも注目をされ、世界でも脚光を浴びてるというものに乗っかっていくのが、一番いいんでないかなと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

私がジオパークで呼べないと言ったんじゃないくて、そういう人もいるという話で、呼べると思うけど限界もある。だから間口を広げてほしいという話をしたんですね。

次へ行きます。

チーム糸魚川という考え方は、非常に素晴らしいですね。チーム市役所、これもまた取り組んでもらっているということなんですが、それぞれの係や課が、まず、チーム例えば総務課とか何とか係とかというような感覚で、係や課がチームとして能力を発揮して、チーム市役所として機能し、チーム糸魚川に大きな力を発揮していかなければいけないということだと思うんですが、そういうイメージでいいですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

ご指摘のとおりであろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

それでチーム糸魚川を達成するためには、要するにこれはある意味、今まで言い古された言葉では縦割り弊害排除ですよ。そのためには日常的なコミュニケーションが、大きな鍵になってくると思います。それはまた声かけが基本である。ちょっとした打ち合わせにも、隣の課に声かけて来てもらう、階が違って部長に来てもらうとか、課長に来てもらうというような、そういうくせをつけなきゃいけないと。何かちょっと枠をつくって、それで対応するというのではないと思うんですね。そういう対応の仕方に変えていかないと、もっとくせをつけると言いますかね、そうしないと、なかなか日常的な業務の進め方は変わらないと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

旧市町では非常に長い歴史があるわけでございまして、また、その中でも特に古い時代は、いろんな職員間のコミュニケーションのとり方というのは非常にあったわけでございまして、そういうものがしっかりされて、運営されてきた部分があります。

しかし、昨今の職員間のコミュニケーションというのは、なかなか非常に難しい時代であるわけでありまして、そう簡単に昔と同じようなやり方で進めるというのは、なかなかできない時代だと思っております。では、どうやってコミュニケーションをとるかというところが課題だと捉えました。

そういう中で、今いろんな手法があるわけですが、特にダイアログというような1つの手法を挙げながら、目的、課題に対してどのように捉えているかというような話を全員から出してもらって、そしてその話を否定することなく、いろんな面でどう考えるんだ、どう捉えればいいのかというのを話をしながら、確かにその課題に対しての課題解消にはなる部分もあるんですが、それ以上に人と人と、職員と職員としてのコミュニケーションもとれてくる部分があって、やはりこれをまた人を変えながらやればいいのかというのをも考えてまして、五、六人でしばらくの時間、話をするという形をとりながら進めさせていただいております。

どうしても課、係になってしまうと仕事でつながってしまって、上下関係だとか仕事の枠の中で、なかなかやはり動きがとれない部分もあるんだろうと思うわけですが、そういったものを離れながら糸魚川市はどうあるべきなのか、職員としてはどうあるべきなのかとか、いろんな話題を提供するものが結構ある中で、今、取り組まさせていただいて、非常にいい方向が見えておるなと思っておりまして。ただ、1回や2回ではだめだろうと思っております。メンバーを入れかわり立ちかわりかえながら、いろんなことをしながら進めていかななくてはいけないだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

何か1つのことに取り組むのに、各課横断的なプロジェクトチームをつくって対応していくとか、今のようなちょっとしたコミュニケーションの場をつくるというのはいいんですけど、私がさっき言ったのは、それはそれとして、しかし日常の業務の中で、気軽に声かけ合って集り合うと。例えば、ちょっと時間があいてましたら来てくださいというようなことで、打ち合わせの中でも引っ張ってきて、それをお互いに嫌がらずにやっていくような空気を醸成していくことが、大事なんじゃないかなと思うんですよ。

それができるようになれば、隣の課でやってることを知らなかったということもない。例えば商工農林水産課と交流観光課が立場が違って、同じような事業をしていて、お互いに知らなかったという事例も今まである。これはもう変えられないんですよ、そういう状況というのは、今みたいな根本的な改革をしていかないと。だからそういうことを私は今言ったんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

当然、それはもう職務の中でやらなくちゃいけないと思っております。逆に、例えば同じような課の中で、当然、同じような事業をやってる、同じ関係するようなものは当然やらないかん。それ以上に、やはりコミュニケーションをとるには、どういうことがあるんだろうかというような形で、今考えさせてもらっていて、そして、それはじゃあどんなふうな知恵が働けば、それが解消できるのんだろうかというようなところまで入っていけるようになっていくんだろうと思っておりまして、

やはり人間対人間という形がしっかり構築できなければ、職員対職員というつながりもできなくなるし、また各係と、また課との違いもやはり非常にかたいものになって、厚い壁になってしまう部分があるんじゃないかなと。もっとやはりその辺を柔軟にやっていけるように常日ごろから、こういった仕事は課は違うかもしれんけど、あの職員ならよく知ってるなというような形の中で相談に行けるような環境というのは、これからできてくるんじゃないかなと思っております。

ですから私も気づいて、ある程度の知識を持って接したんですが、そういった1つの研修をすることによって、この職員は、こんなところまで考えていたのか、こんなこともできるのかというのを気づいた部分がございます。非常にありがたい、また、いいチャンスを得たなと思っておりまして、これは職員間でも同じだろうと思っておりまして、こういうものをもっともっと数多く、忙しい中であっても時間をつくっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

当然、コミュニケーションということに関しては個人差があるんですよね。やっぱりそれをなくしていく努力をしていかなきゃいけないということで、当然やらなきゃいけないことを、本当に確実にやるためにどうするかというところが、大きな課題だろうと思います。

意識改革は、これまで何度も私も取り上げてきました。しかし、市民からいろんな相談を受けると、それが職員の取り組みの甘さですね。職員と市民が接した場面で、きちっと対応してれば解決したものを、例えば市民からいい提案があったものに対して、職員側が手続の問題だけでお断りをしてしまったと。何でだめなんだろう。そして確認してみたら、単なる手続の問題だったというようなこともあるわけですね。ですから職員の意識改革の壁は、理屈どおりになかなかいかない難しい問題だと思いますので、しっかり取り組んでいただきたい。

チーム糸魚川の先ほどの答弁でも、チームワークを高めるということがありました。まだ今、結成したばかりですよね。しかし、開通まで1年なんです。チーム糸魚川の人たちは、多分、危機感を持ってらるんですね、1年後にどうなるかということに対して。やはりそこで意識を共有して、チーム糸魚川としての動きを、できることからでいいから、もう枠組みを決めて、その仕組みをつくって取り組むというよりも、やはりできることからやっていくようなことでなきゃ機能していかないんじゃないかと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

前段でもお話をさせていただきましたように、チーム糸魚川につきましては、どんなことをするんだ、何をするんだ、どういうイベントをやるんだ、また、どういう事柄なんだというようなことで、なかなか核心に入れなかったわけでありまして。

と申しますのは、やはりもっと具体的にやるべきだとかというんですが、そうじゃなくて、今まではいろんなもので、そういった事業をやらなくてはいけないためにつくられたり、また、ある程

度のものを想定する中で進めてきた部分がございます。そうではなくて、今回はチームワークをやはりつくり上げていくために、本当に白い状態、真っ白なところからいこうよというような形で、何度も何度も集りながら、そういった入り口のところで時間をかけさせてもらってまいりました。

そのようなことで、その時間をかけたというのは、やはりみんなで作っていく方向にもっていくことが大事じゃないかなと思ひまして、しっかりその辺をみんなで共有しながら、そして市民全体で活動できる方向が一番いいんじゃないかというような形で、今回、挙げさせていただいております。

ですからメンバーを見ると、何か組織だけでやってるんじゃないかというんですが、そうじゃなくて市民全体がその枠の中で活動できる組織はといたらあるぐらいの、やはりメンバーが入っていれば全部かかわれるだろうという形で進めさせていただいたわけでありまして。そういう形の中で動くことによって、またさらにその中から生まれてくるような新たなプロジェクトなり、活動事業が出てくるんだろうと思ひますが、まずは全員で動ける環境が、また動けるような事業を展開して、チームワークを高めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

1つは、市長が開通後の糸魚川市の姿、グランドデザインを示す方法、手法はいろいろあると思ひます。

それからもう1つは、個々の政策の実行や、それから行動の積み重ねによって官民一緒に盛り上がって、そのグランドデザインの達成を、身近なものと感じられるようになることだと思ひますよ。簡単に言ってますが、非常に難しいことだと思ひますが、それで市民が、よし、じゃあここで頑張ったら何とかなるかもしれんぞという希望を持っていくということで、新幹線開通後の糸魚川市を考え行動していく。そしてみんなで力を合わせて、その新幹線開通を糸魚川市の好機と転じていくということが必要だと思ひますね。

いろいろ答弁でわかりましたので、取り組みをよろしくお願ひいたします。

以上で終わります。

○議長（樋口英一君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

本日はこれにとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後4時15分 延会〉